

植調剤処理方法改善によるブドウ ‘デラウェア’の裂果軽減技術

ブドウ‘デラウェア’は、梅雨時期に成熟期を迎える作型を中心に、裂果が多発し減収の一因となっています。そこで、植物生育調節剤の処理方法の改善による裂果抑制効果について検討しました。

①ジベレリン（GA）1回目処理の早期化による花穂伸長促進

準加温～無加温栽培の摘粒時期は、早期加温栽培の成熟期と重なるため、ほとんど摘粒が行われていません。そこで、過密着による裂果を防止するため、GA1回目処理を展葉8葉期（慣行10葉期）

に行い、花穂伸長を促す処理を行いました。その結果、着粒密度が慣行の12粒/cmに対し、9粒/cmとなり、秀品率を落とすことなく過密着を防ぐことができました。しかし、GA早期処理ではびっくり玉になりやすく、果粉の着生が劣ったことにより、裂果の発生は減少しませんでした。

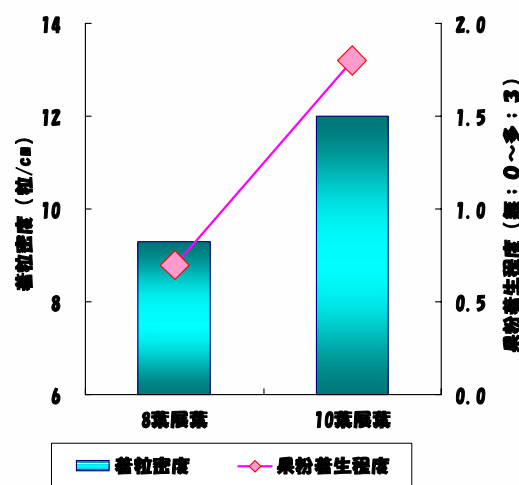


図1 GA1回目処理時期と着粒密度および果粉着生程度



図2 果粉着生程度と加温時の裂果の発生程度

②GA 2回目処理時期による裂果防止

そこで、GA2回目処理時期による裂果抑制効果について検討しました。GA1回目処理を早期に行ったことにより、びっくり玉になった果房においても、GA2回目処理を満開後5日に行うことにより、果粉の着生が促され、果皮強度が増すことにより裂果が抑制されました。

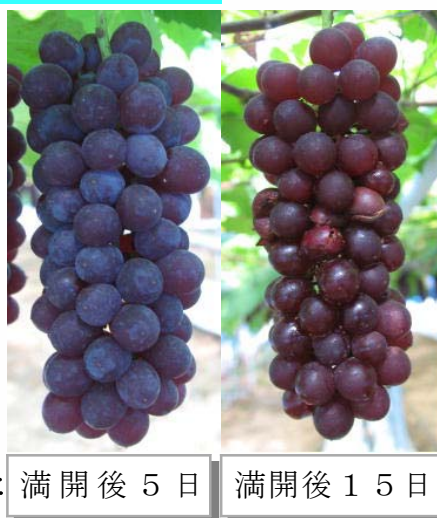


図3 GA2回目処理時期別の成熟期の状況

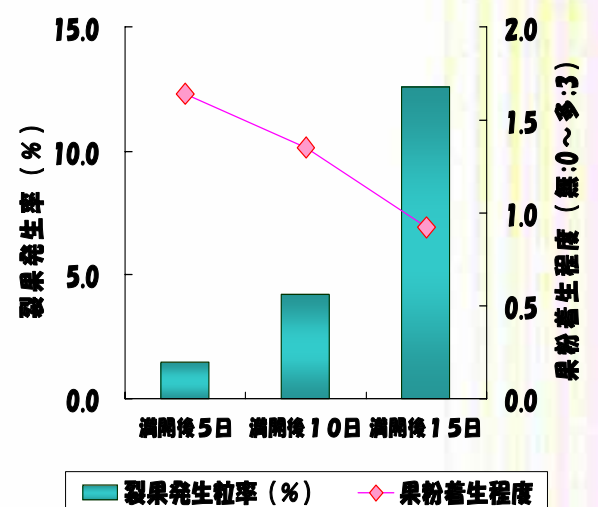


図4 GA2回目処理時期が果粉着生、裂果発生に及ぼす影響